宇都宮市立宝木小学校 第5学年 児童質問調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「自分はクラスの人の役に立っていると思う」という肯定割合は68.4%で県平均を上回った。また、「学校での役わりや係の仕事に責任をもって取り組んでいる」という肯定割合は95%以上の結果が得られた。日頃の委員会活動や学級での係や当番活動に意欲的に取り組む児童が多いことが伺える。引き続き、委員会活動の充実や責任感をもたせる指導を行い、児童の意識を高めていきたい。

○「自分には、よいところがあると思う」という肯定的割合は83.6%であり、県の平均より1.5ポイント上回っている。当番活動や委員会活動で、一人一人に活躍の場があることで、自己肯定感が高まっていると考えられる。また、褒めて伸ばす指導を継続するとともに、児童一人一人に居場所感を与えることで引き続き、自己肯定感の高揚に努めていく。

●「家で、学校の授業の復習をしている。」の肯定割合は50%で県平均の67.8%を大きく下回っている。また、「家で、テストでまちがえた問題について勉強している。」の肯定割合は44.8%でこちらも県平均の64.9%より20.1ポイント低く、復習や間違い直しをする児童は少ないことが分かる。まずは、テストを返すタイミング等で、復習や間違い直しをすることの必要性和重要性を繰り返し伝えていく。また、テストで間違った箇所をもう一度行うよう、宿題や自主学習に出し、復習や間違い直しをする習慣を身に付けさせていきたい。

●「学校の授業時間以外に、ふだん、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか」の質問に対して1時間以上学習している児童は、43%で、県平均を下回った。本校では5年生の家庭学習の時間は60分を目標としており、家庭学習では、宿題に加えて自主学習を行うことで60分を目指してほしいと考えている。できた、分かったを実感できるような授業を目指し、学習が少しでも楽しい、もっとやってみたいと感じることができるよう個別の支援にも力を入れて、前向きに学習に取り組めるような指導を続けていく。

●「グループなどの話し合いに自分から進んで参加している。」という肯定割合は67.6%で県平均を10ポイント下回った。「授業では、クラスの友達との間で話し合う活動をよく行っている」という肯定割合は86.9%で県平均をやや下回った。この2つの項目から、児童の話し合い活動に対する消極さが伺える。そのため、授業や委員会活動等を通じて、意図的に話し合い活動を取り入れ、話し合う場面を多く設定する。話し合いをする目的や内容を明確に示し、自分の考えを深めたり広げたりできるよう指導していく。また、「クラスは発言しやすい雰囲気である」の肯定割合は79%で県の平均を下回っている。発言がしやすい学級の雰囲気づくりを日頃から行い、話し合いをしてよかったと思えるような指導を心掛けていく。